



TITLE:

アリナミンの泌尿器科的応用

AUTHOR(S):

稲田, 務; 後藤, 薫; 片村, 永樹; 山崎, 巖

CITATION:

稲田, 務 ...[et al]. アリナミンの泌尿器科的応用. 泌尿器科紀要 1956, 2(5): 300-302

ISSUE DATE:

1956-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111147>

RIGHT:

アリナミンの泌尿器科的応用

京都大学医学部泌尿器科教室 (主任 稲田教授)

教 授	稲 田	務
助 授	後 藤	薫
副 手	片 村	永 樹
副 手	山 崎	巖

Studies on Urological Application of Alinamin

Tsutomu INADA, Kaoru GOTO, Eizyu KATAMURA, and Iwao YAMAZAKI.

From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University

(Director : Prof. T. Inada.)

The authors have reported on application of Alinamin for 7 cases of nocturnal enuresis and 2 cases of neurogenic bladder. It is very successful in 3 cases, efficient in 4 cases and unavailable in 2 cases.

緒 言

アリナミンは従来のビタミン B_1 とエンニクの有効成分とが結合して出来るアリサイアミンの誘導体 Thiamine propyl disulfide (TPD) の結晶であり、1952年藤原氏により発見されたものである。アリナミンは組織親和性が従来の B_1 よりも著しく優れており、従つて生体内の貯留時間が長く、また腸管からの吸収が極めてよく、吸収後 B_1 となつて血中濃度の上昇をきたし、体内諸臓器への沈着性が B_1 よりもはるかに強く、また B_1 分解酵素アノイリナーゼによつて分解されないことが認められ、既に臨床上 B_1 欠乏症状、神経疾患に優れた効果を示すとの報告が多数にある。神経疾患に対する報告として、近藤氏の椎弓切除後、脊髓腫瘍剔除後等の膀胱直腸障害に対するアリナミンの著効例がある。また常習便秘、或いは自律神経不安定にもとづく intestinal dyskinesia にも著効例の報告があり、これらの事からアリナミンが自律神経に作用して腸管運動を正常化させるものと考えられている。

泌尿器科領域では、自律神経不安定にもとづ

くことが認められている夜尿症に、従来から諸家により B_1 仙骨腔内、或いは腰椎内注入療法が用いられ、カテラン氏法にまさと報告されている (鈴木、竹内、並木氏等)

我々は夜尿症、外傷後の尿失禁 (神経因性膀胱) にアリナミンを使用し、少数例ではあるが満足すべき成績を得たので報告する。

臨 床 成 績

夜尿症 7 例、外傷後の尿失禁 (神経因性膀胱) 2 例にアリナミンの内服、或いは仙骨腔内注入を行った。その成績の概要を附表に示し、各例について記載する。

〔第 1 例〕 9 才、♂。夜尿症。

生来毎夜 1～2 回の夜尿があり、就床後 1～2 回は起こして排尿させねばならなかつた。アリナミン錠を朝、就床時 2 回 1 錠宛服用させたところ、1 週後頃から夜尿は消失し、また自ら覚醒して排尿するようになった。15 日間使用して中止したが再発をみず全治した。

〔第 2 例〕 5 才、♀。夜尿症。

生来毎夜 3 回の夜尿がある。アリナミン錠を朝、就床時 2 回 1 錠宛服用させたところ、服用当日から夜尿は消失したが、15 日間使用して中止すると再発をきたした。再び同様に使用すると夜尿は消失したが、15 日

後中止すると又再発を来した。

〔第3例〕 9才，♂。夜尿症。

生来毎夜3～4回の夜尿があり，注意して何回も起こさねばならなかつた。アリナミン錠を就床時のみ1錠宛服用させたところ，服用当日より夜尿は2回に減じ，多少起こす時間が遅れても，しくじることがなくなつた。30日間続けたが，夜尿の全く消失することなく，朝，昼，就床時3回1錠宛に増量して更に30日間続けたが，同様であつた。中止すると元の如く3～4回の夜尿を来すようになった。

〔第4例〕 8才，♂。夜尿症。

生来昼間頻尿，毎夜1回の夜尿がある。アリナミン錠を朝，昼，就床時の3回1錠宛服用を15日間続けたが不変であつた。

〔第5例〕 10才，♂。夜尿症。

生来昼間頻尿（1時間に1回），毎夜3～4回の夜尿がある。アリナミン錠を朝，昼，就床時の3回1錠宛7日間服用させたが不変であつた。

〔第6例〕 20才，♂。夜尿症。

数年前から月に1～3回の夜尿をきたすようになった。アリナミン 5 mg を生理食塩液 15 cc に混じて仙骨腔内注入を行つたところ，最初1週間に1回の夜尿があり，1週後2回目の注入を行つたところ，爾後現在迄2ヵ月間夜尿をきたすことはなかつた。

〔第7例〕 25才，♂。夜尿症。

生来冬期になると半月に5～6回の夜尿をきたす。12月初旬にアリナミン 5 mg を生理食塩液15ccに混じて仙骨腔内注入を行つたところ，12月中には2回の夜尿のみであつた。

〔第8例〕 26才，♂。神経因性膀胱。

初診1年前に工事中土砂に埋没し，骨盤及び肋骨骨折をうけた。以後排尿障害，尿失禁をきたすようになった。アリナミン 5mg を生理食塩液15ccに混じて仙骨腔内注入を行つたところ，尿失禁は全く消失した。しかし1週後に再発した。現在迄1週1回宛11回実施したが，尿失禁は注入後1週間のみ消失する。排尿障害に対しては不変である。

〔第9例〕 34才，♂。神経因性膀胱。

初診6ヵ月前に骨盤骨折をおこし，その直後から排尿障害，尿失禁をきたすようになった。排尿障害はブーギー療法により治癒したが，尿失禁は依然として続き，アリナミン 5mg を生理食塩液 15cc に混じて仙骨腔内注入を週2回宛実施した。第2回注入後尿失禁は減少し，第4回で全く消失した。中止後2週間で再発をきたし，同様に注入を3回実施したところ全く消失し，爾後再発をみない。

結 語

自律神経不安定による夜尿症に対して， B_1 仙骨腔内，或いは腰椎内注入療法がカテラン氏法よりすぐれていることは既に報告せられているところである。同様に自律神経不安定にもとづく intestinal dyskinesia にもアリナミンの著効の報告がある。又 Wirtz らは外傷性神経炎に対して B_1 を脊髄腔内に注入するのが効果的であると発表し，近藤氏らは椎弓切除後等の膀胱直腸障害に対してアリナミンの優れた効果を発表している。古来より精力剤として民間に愛用されて来たニンニクの有効成分を結合してつくられたアリナミンが B_1 より優れた種々の特性を有し，しかも自律神経不安定による疾患，神経疾患に有効に作用する事は当然考えられるところである。

我々は夜尿症7例，外傷後の尿失禁（神経因性膀胱）2例，計9例にアリナミンを使用し，著効3例，有効4例，無効2例の成績を得た。

副作用は1例も経験しなかつたが，仙骨腔内注入の際相当の疼痛があり，患者にこれを耐えさせねばならないことを附言する。

文 献

- 1) 藤原：アリナミン文献集，昭30。
- 2) 井上：アリナミンの反響，昭30。
- 3) 近藤，土居：アリナミン文献集，昭30。
- 4) 鈴木：日泌誌，**32**：517，昭17。
- 5) 竹内：日泌誌，**38**：70，昭22
- 6) 並木，上出，和泉：日泌誌，**43**：272，昭27。

附表 アリナミン使用症例の概要

症例	年齢	性別	病名	症状	用法	使用量	効果	備考
1	9	♂	夜尿症	毎夜1~2回の夜尿	内服	朝5mg} × 15日 夜5mg}	著効	
2	5	♀	"	毎夜3回の夜尿	"	朝5mg} × 15日 → 再発 → 5mg} × 15日 夜5mg}	有効	
3	9	♂	"	毎夜3~4回の夜尿	"	夜5mg × 30日 + 朝5mg} × 30日 夜5mg}	"	
4	8	♂	"	昼間頻尿, 毎夜1回の夜尿	"	朝5mg} × 15日 昼5mg} 夜5mg}	無効	
5	10	♂	"	昼間頻尿, 毎夜3~4回の夜尿	"	朝5mg} × 7日 昼5mg} 夜5mg}	"	
6	20	♂	"	月に1~3回の夜尿	仙骨腔内注	5mg注入 × 2回	著効	
7	25	♂	"	冬季のみ半月に5~6回の夜尿	"	5mg注入 × 1回	有効	
8	26	♂	神経因性膀胱	排尿困難, 尿失禁	"	5mg注入 × 11回	"	尿失禁に対してのみ
9	34	♂	"	排尿困難, 尿失禁	"	5mg注入 × 4回 → 再発 → × 3回	著効	